

全保連、琉大へ寄付

後援財団に奨学金

アパートやマンションの家賃保証事業を手掛ける全保連が増えるよう支援したい」と(追幸治社長)は8日、学生思いを語った。今後は給付人数を広げるため、寄付金の額を増額することも検討しているという。

同財団の金城理事長は「学生への大きな励みになる。有効に使わせていただきます」、大城理事長は「奨学金の名称の『未来創出』は大学の将来像にも重なる。学生の人材育成に活用していく」と感謝した。

奨学金は全学部生(7人)を対象にしたタイプAと、大学院生(2人)が対象のタイプBがあり、1人につき10万円が給付される。

迫社長は「学業に専念し、



(右から) 寄付金を贈った追幸治社長と、受け取った金城理事長、大城理事長。8日、琉球大学

全保連が奨学金 琉球大に90万円

給付型、今後増額も

琉球大(西原町、大城毅学長)の学生や若手研究者を支援する新たな給付型奨学金「全保連未来創出奨学金」が2019年度から始まる。全保連(那覇市、追幸治社長)が8日、同大の奨学金事業を運営する公益財団法人琉球大学後援財団



(金城理事長)に初年度分90万円を贈呈した。学部生7人、院生2人の合計9人に年間10万円ずつを支給する。3月に開かれる財団の理事会で事業計画を決定し、4月以降に募集・給付する。迫社長による

と、今後も寄付を継続し、予算を増額して給付人数を増やす予定。

迫社長「写真右」は「県内採用の大学生がとも活躍している。学生を支援したい」と話した。金城理事長「同中央」は「未来の沖縄、日本を支える学生の励みになる」、大城学長は「『未来創出』は琉大の方針と合致している。未来の人材育成へ有効活用したい」と感謝した。

財団が現在運営する奨学金事業は、成績優秀な学生や特定分野の研究、留学などを対象とする15種類で合計1488万円。今回のもので16種類となる。